



シュモーさんが のこ 残してくれたもの



© ^{へい わ} ^{たいせつ} ^{つた} ^{にほん} ^{ごきょうざい} ^{かい} 平和の大切さを伝える日本語教材をつくる会

^{きょうりよく} ^{まな} ^{かい}
協力: NPO サダコレガシー シュモーに学ぶ会
^{ながさきげんぱく} ^{しりょうかん} ^{ひろしまへい} ^わ ^{きねん} ^{しりょうかん}
長崎原爆資料館 広島平和記念資料館

3 「ヒロシマの家」をつくる

つづ
の続き

4 ある つづ 歩き続ける

1) 「シュモー^{じゅうたく}住宅^よ」と呼ばないで！

ひろしま^し 広島市からの^{しょうたいじょう}招待状^{みなみまち}には、「皆実町シュモー^{じゅうたく}住宅^か」と書かれていました。シュモーさんたちが^た建てた^{いえ}家に、なんとシュモーさんの^{なまえ}名前がつけられていたのです。

なぜ、この^{なまえ}名前なんだ！？

シュモーさんは、その^{なまえ}名前に^{なっとく}納得できません
でした。^{いえ}家をつくったのは、シュモーさん^{ひとり}一人

ではありません。それで、^{がつつたち} 10月1日の式^{しき}のス
ピーチ^いで言いました。

「家^{いえ}は、みんなで^た建てました。『シュモ^{じゅう}ー住
宅^{たく}』ではなくて『平和^{へい}住^わ宅^{じゅうたく}』にするべきです。
これらの家^{いえ}には、原爆^{げんばく}を落^おとしたのは悪^{わる}いこと
だと思^{おも}うアメリカの人^{ひと}たちの気持^きちが込^こめられ
ています。多^{おお}くの人^{ひと}たちが、家^{いえ}を建^たてるお金^{かね}を
くれました。日本^にの人^{ほん}たちも一^{ひと}緒^{いっしょ}に働^{はたら}いてくれ
ました。この夏^{なつ}、私^{わたし}たちは愛^{あい}と理^り解^{かい}の心^{こころ}を持^も
って一^{いっしょ}緒^{はたら}に働^せきました。世^せ界^{かい}中^{じゅう}の人^{ひと}々が、理^り
解^{かい}の心^{こころ}を持^もって一^{いっしょ}緒^くに暮^{いっしょ}らし、一^{いっしょ}緒^{はたら}に働^くこ
とを学^{まな}ばなくてはなりません。平和^{へい}へ^わの思^{おも}いを
目^めに見^みえる形^{かたち}にしたのが、これらの家^{いえ}です」

シュモーさんの^{おも}思いを^う受けて、^{いえ}家の^{なまえ}名前は

^{みな}「^み皆^{まち}実^{へい}町^わ平和^{じゅうたく}住宅」になりました。

^{なんぜん}何^{にん}千人^{ひと}もの人^{いえ}たちが、^{けんがく}家^きを見^き学^きに^き来^きました。

そして、^{よん}4^こ戸^{いえ}の家^{さんぜん}に、^{はっぴやく}3^{かぞく},^{もう}800^{もう}の^{かぞく}家族^{もう}が^{もう}申^{もう}し^{もう}込^{もう}みました。

その^ご後^ごも、シュモーさんたちは、^{げんぱく}原^お爆^おが^お落^おち

^{あと}た^{ひろしま}後^{ひろしま}の^{ひろしま}広^{ひろしま}島^{ひろしま}の^{ひろしま}こ^{ひろしま}と^{ひろしま}を、^{じゅう}ア^{はな}メ^{つづ}リ^{つづ}カ^{つづ}中^{つづ}で^{つづ}話^{つづ}し^{つづ}続^{つづ}け^{つづ}ま

した。その^{かげ}お^せ陰^{かいじゅう}で、^き世^ふ界^{きん}中^{あつ}か^{あつ}ら^{あつ}寄^{あつ}付^{あつ}金^{あつ}が^{あつ}集^{あつ}ま

り、^{さん}プ^かロ^{さん}ジ^かェ^{さん}ク^かト^{さん}に^{さん}参^{さん}加^{さん}す^{さん}る^{さん}人^{さん}も^{さん}増^{さん}え^{さん}て^{さん}い^{さん}き^{さん}ま^{さん}した。

1949^{ねん}年^{ねん}か^{ねん}ら^{ねん}1953^{ねん}年^{ねん}ま^{ねん}だ^{ねん}の^{ねん}5^{ねん}年^{ねん}間^{ねん}で、

^{ひろしま}広^{いえ}島^{にじゅう}に^こ家^{しゅうかいじょ}20^{かんせい}戸^{かんせい}と^{かんせい}集^{かんせい}会^{かんせい}所^{かんせい}が^{かんせい}完^{かんせい}成^{かんせい}し^{かんせい}ま^{かんせい}し^{かんせい}た。

2) そして、^{ながさき}長崎、^{ちょうせんはんと}朝鮮半島、エジプトへ

シュモーさんたちは1951年^{ねん}から、^{ながさき し}長崎市
でも、^{げんぱく ひ がい}原爆の被害にあつた人たちのために、^{いえ}家
^{はっ こ しゅうかいじょ た}8戸と集会所を建てました。

1950年^{ねん}、^{ちょうせんはんと}朝鮮半島で^{せんそう はじ}戦争が始まりました。
また、^{ひと いえ}たくさんの方が家をなくしました。
シュモーさんは、^{こくれん たの}国連に頼まれて、^{かんこく い}韓国へ行き
1953年^{ねん}から3年^{ねん}かけて、^{いえ やく ひ やっ こ}家を約100戸と
^{しんりょうじょ た}診療所（クリニック）を建てました。

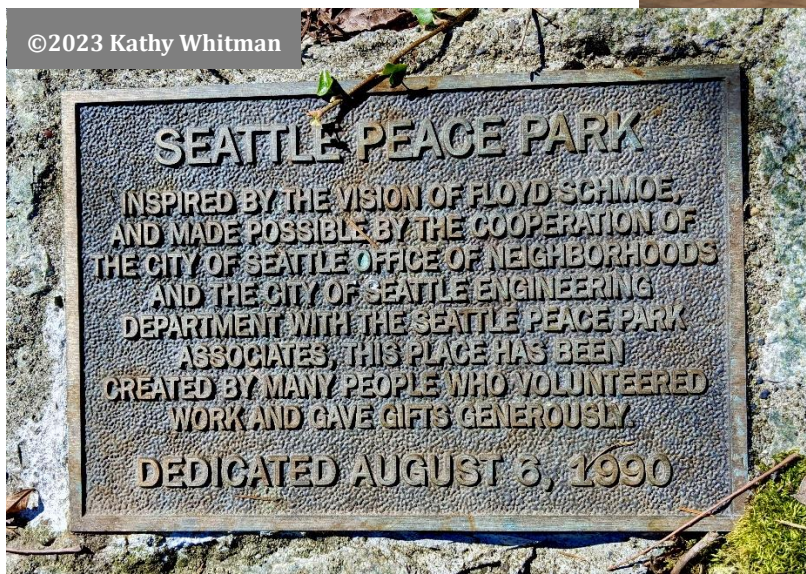
1957年^{しちねん}には、^{だい に じ ちゅうとうせんそう なんみん}第二次中東戦争で難民とな
^{ひとびと}った人々のために、エジプトで^{い ど ほ}井戸を掘ったり
しました。

3) シアトル市^し（アメリカ）で

シュモーさんは、^{みらい}未来の子どもたちのために
^{こうどう}行動し^{つづ}続けました。

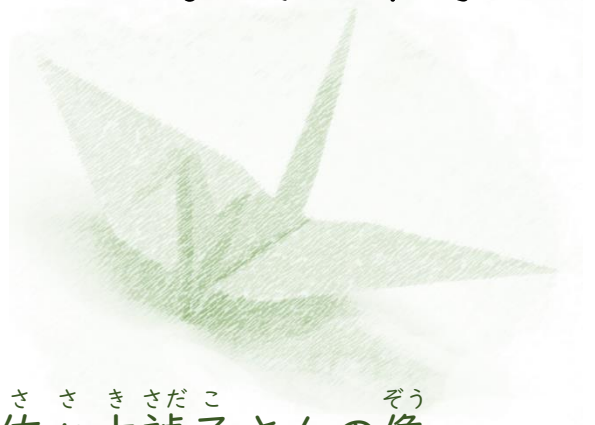
もう二度と原爆^{げんばく}が使^{つか}われてはならない。

「ヒロシマ」を^{わす}忘れないことが^{たいせつ}大切だ。



アメリカ・シアトル市^しのピース・パーク

よんさい　とき
94歳の時、シュモーさんは、アメリカの
シアトル市に「ピース・パーク」をつくり、
さ　さ　き　さだ　こ　ぞう　お　みぎ　て
佐々木禎子さんの像を置きました。その右手は
お　づる　も
折り鶴を持っています。



アメリカ・シアトル市にある佐々木禎子さんの像

©2022 NPO サダコレガシー



さ さ き さだ こ
佐々木禎子さんは、「ヒロシマ」の

おんな こ さい とき げんぱく ひ がい
女の子です。2歳の時、原爆の被害

にあいました。10年後12歳の時、

はっけつびょう びょう き かいふく ねが
白血病になり、病気の回復を願っ

て、鶴を折り続けましたが、亡くなり
ました。



げんぱく こ ぞう ひろしま し へい わ き ねんこうえん
原爆の子の像（広島市の平和記念公園）

シュモーさんの言葉が、シアトル市のピース・
パークに残されています。

「鶴を折るだけでは 核戦争は止められない。」

でも、鶴を一緒に折れば友だちになれる。

友だちになれば戦争はしない」



©2023 Kathy Whitman

"I tell the children folding paper cranes will not
stop atomic war, but folding cranes will
make friends and friends will not make war."

Floyd Schmoe

©2023 Kathy Whitman



↑ シュモーさんの言葉

← 禎子さんの像

シアトル・ピース・パーク

1995^{ねん}年、シュモーさんは、100^{さい}歳の

たんじょう び かい ひら
誕生日会を開きました。

「ヒロシマの^{ひ げき}悲劇は、あまりにも^{おお}大きい。

それでも、^{はい}灰になったヒロシマから、人々は^{ひとびと}

^{ふたた}再び ^{うつく}美しい^{まち}街を^{きず}築きあげた。それは ^{じんるい}人類の
^{き ぼう}希望でもある」

シュモーさんの^{たんじょう び}誕生日は^{がつ}9月^{にち}21日でした。

でも、^{おお}多くの^{ひとびと}人々にヒロシマを^{き おく}記憶し、^{へい わ}平和の

^{たいせつ}大切さを^し知ってもらいたいと、^{がつ む い か}8月6日（ヒロ

シマの^{ひ ばく}被爆^{しゅうねん き ねん び}50周年記念日）を^{たんじょう び かい}誕生日会の日

^{えら}に選びました。

シュモーさんは、2001^{ねん}年、105^{さい}歳で
亡^なくなりました。平和^{へい わ}のために行動^{こうどう}し続^{つづ}けた
一^{いっしょう}生でした。



お^おづる^{づる}かざ^{かざ}で飾^{さだこ}られた禎^{ぞう}子^しさんの像^し（シアトル市）

シアトル市^しの子どもたちは、折^こり鶴^おを折^おっ
て、禎^{さだこ}子^こさんの像^{ぞう}に飾^{かざ}っているそうです。

4) シアトルから

こうどう
行動しよう！

へい わ おも め み かたち
平和への思いを目に見える形にしよう！

シュモーさんが亡^なくなった後^{あと}も、この考^{かんが}えは
つた
伝えられていきました。

ひと れい す おんがく か
その一つの例として、シアトルに住む音楽家
(シンガー・ソング・ライター) みちこ
さんの活動^{かつどう}があります。

2003^{ねん}年、シアトル市^しのピース・パークに
ある禎子^{さだこ}さんの像^{ぞう}の右腕^{みぎうで}が壊^{こわ}されたことがあり
ました。ニュースでそれを知^しったパンピアンさ
んは像^{ぞう}の修復^{しゅうふく}のために募金活動^{ぼきんかつどう}を始めました。

なんと、日本を含む10か国から、お金と
約5万羽の折り鶴が届いたのです。禎子さんの
像は、ヒロシマ原爆の日（8月6日）に、元の
姿になりました。

パンピアンさんは、このように言いました。

「たくさんの人に参加してもらいたいのので、
寄付を1ドルにしました。一人で平和をつくる
のは簡単ではありません。でも、みんなでやれ
ばできるという感動を、一緒に味わいたいと思
いました。シュモーさんは、素晴らしい生き方
を教えてくださいました。平和な世界をつくる
ために行動することは、きっと世界中の子ども
たちに伝わると信じています」

パンピアンさんは、寄付^{きふ}をしてくれた日本^{にほん}の
人々^{ひとびと}のために、東京^{とうきょう}や広島^{ひろしま}で お礼^{れい}のコンサート
を開^{ひら}きました。

5) 広島^{ひろしま}でも

シュモーさんたちが建^たてた家^{いえ}は、古^{ふる}くなり、
取^とり壊^{こわ}されていきました。でも、地^ち域^{いき}の人^{ひと}に愛^{あい}
されて、「シュモー会館^{かいかん}」と呼^よばれていた集^{しゅう}
会^{かい}所^{じょ}は、古^{ふる}くなっても使^{つか}われ続^{つづ}けました。住^{じゅう}民^{みん}
た^{たい}の切^{せつ}な交^{こう}流^{りゅう}の場^ば所^{しょ}だったのです。ところ
が、高^{こう}速^{そく}道^{どう}路^ろの建^{けん}設^{せつ}のた^ために、集^{しゅう}会^{かい}所^{じょ}も取^とり壊^{こわ}
さなければならなくなりました。

そこで、広島^{ひろしま}市^しや市^し民^{みん}が行^{こう}動^{どう}を始^{はじ}めました。

とう じ あき ば ひろしま し ちょう ひと のこ
当時の秋葉広島市長は、たった一つ残っていた「シュモ-会館」を移転して、保存すると言いました。

しちねん かいかん り よう
2007年には、「シュモ-会館」を利用して
じゅうみん しゅうかいじょ のこ
いた住民たちからも、集会所を残してほしい
ねが せいしき ひろしま し だ
という願いが、正式に広島市に出されました。

ひと ほか
その人たちだけではありません。他にも、シュ
モ-さんが しゅうかいじょ こ おも たいせつ
集会所に込めた思いを大切にしたい
おも ひとびと
と 思う人々が たくさん いました。

ご かいかん のこ
その後、「シュモ-会館」は、残されるため
あた ば しょ い てん
に、新しい場所に 移転されることになりました

いま ひろしまへいわ きねん し りょうかん てん じ し せつ
た。今は、広島平和記念資料館の展示施設

う か
「シュモ-ハウス」として、生まれ変わっています。

ひろしま し みる こうどう つづ

広島^{ひろしま}の市民^{し みる}も行動^{こうどう}し続^{つづ}けています。パンピアン

さんが始^{はじ}めた1ドル募^{ぼ きん}金の活動^{かつどう}（2003^{ねん}年）を

きっかけに、シュモーさんのことを知^しりたいと

始^{はじ}まった勉^{べん}強^{きょう}会^{かい}があります。「シュモーさんの

ヒロシマの家^{いえ}を語^{かた}り伝^{つた}える会^{かい}（今^{いま}の「シュモー

に学^{まな}ぶ会^{かい}）」は、本^{ほん}や紙^{かみ}芝^{しば}居^いをつくって、小^{しょう}学^{がっ}

校^{こう}や幼^{よう}稚^ち園^{えん}などで、「シュモーハウス」について

紹^{しょう}介^{かい}しています。

「シュモーハウス」は、伝^{つた}え続^{つづ}けていきま

す。シュモーさんが残^{のこ}してくれたものを。

こうどう
行^{こう}動^{どう}しよう！

へい わ おも め み かたち
平^{へい}和^わへの思^{おも}いを目^めに見^みえる形^{かたち}にしよう！



おわりに

シュモーさんは、なぜ^{とお}遠いアメリカから^{ひろしま}広島
に^い行って ^{いえ}家を^た建てたのでしょうか。

……………^{せんそう}戦争をなくすために、^{せ かいじゅう}世界中の
^{ひとびと}人々が、^{り かい}理解と^{あい}愛を持^もって、^{とも い}共に生きる
^{ほうほう}方法を、^{わたし}私^{さが}たちは探してきました。しか
し、^{せんそう}戦争をなくすことはできませんでし
た。せめて、^{ひ ばく}被爆して^{くる}苦しんでいる^{ひと}人た
ちのために、^{わたし}私^{わたし}たちが^{わたし}できることをしな
ければならないと思^{おも}っています。それは
^{いえ}家をなくした^{ひと}人たちのために、^{いえ}家を^た建て
ることです。 ^{ちい}小さな^{ほうほう}方法ですが……

この手紙は、シュモーさんが 日本に行く前

に、日本の天皇に送ったものです。シュモーさ

んの考えが書かれています。

国や人種を越えて、みんなで一緒に家を建

てることでお互いを理解しあう、そんな平和な

世界をシュモーさんは、つくりたかったのです。

平和をつくるために、できることから始めて

みましょう。小さなことでいいのです。私たち

の心にある優しい気持ちが目に見えるように。

シュモーさんの生き方は、私たちの背中を、

そっと押してくれる気がします。

お
(終わり)



シュモーさんの本^{ほん}より
Floyd Wilfred Schmoe (1983)
Why is man: That Thou
abidest him. C.E.Publications

© シュモーに^{まな}学^がぶ会

人間^{にんげん}は木^この葉^はと同じよう
に たった一度^{いちど}の人生^{じんせい}を生^いき
るだけだ。木^この葉^はは地面^{じめん}に落^お
ちて土^{つち}を豊^{ゆた}かにする。豊^{ゆた}かな
土^{つち}は新^{あた}しい芽^めを育^{そだ}てる。落^おち
た葉^はは死^しんでも、木^きや芽^めは大^{おお}
きくなっていく。人間^{にんげん}も同^{おな}じ
だ。必^{かな}ず死^しぬが、命^{いのち}は永^{えい}遠^{えん}に
続^{つづ}いていく…。



© 2022 平和の大切さを伝える日本語教材をつくる会

みなみへいわじゅうたく ひろしまし
皆実平和住宅（広島市）にある「シュモーの庭」



© 2022 平和の大切さを伝える日本語教材をつくる会

シュモーさんの一生

1895 フロイド・シュモー氏^しアメリカ・カンザス^{しゅう う}州に生まれる

1914 第一次世界大戦^{だいいち じ せ かいたいせん} (~1918)

1918 戦争^{せんそうちゅう}中のフランスで、難民^{なんみん}のために家の修理^{い え しゅうり}などをする

1939 第二次世界大戦^{だいに じ せ かいたいせん} (~1945)

1941 真珠湾攻撃^{しんじゅわんこうげき}

1942 アメリカ政府^{せい ふ}の公聴会^{こうちようかい}で日系人^{にっけいじん}の強制収容^{きようせいしゅうよう}に反対^{はんたい}する

1945 広島^{ひろしま}・長崎^{ながさき}に原爆投下^{げんぱくとうか}

1948 広島市^{ひろしま し}を訪問^{ほうもん}するため、ヤギ^つを連れて初めて日本^{は に ほん}に行く

アメリカで Houses for Hiroshima プロジェクトを立ち上げる^{た あ}

1949 「ヒロシマの家^{い え}」建設^{けんせつ}のために広島^{ひろしま}に行く

建てた家^た「皆実町^{い え}平和^{みな まちへい}住宅^{わ じゅうたく}」を広島市^{ひろしま し}に贈る^{おく} (1期^{いっ き})

1950 再び^{ふたたび}広島市^{ひろしま し}に行き家^いを建設^{けんせつ}する (2期^き)

1950 朝鮮戦争^{ちょうせんせんそう}
(~1953)

1951 「ナガサキの家^{い え}」を建設^{けんせつ}する

プロジェクトの仲間^{なか ま}が広島市^{ひろしま し}で家^{い え}を建設^{けんせつ}する (3期^き)

1952 4度目^{よん ど め}の広島訪問^{ひろしまほうもん} 家^{い え}を建設^{けんせつ}する (4期^{よん き})

1953 5度目^{ご ど め}の広島訪問^{ひろしまほうもん} 家^{い え}を建設^{けんせつ}する (5期^き)

朝鮮半島^{ちょうせんはんとう}で家^{い え}を建設^{けんせつ}する

1956 第二次中東戦争^{だいに じ ちゅうとうせんそう} (~1957)

1957 エジプトで難民^{なんみん}のために井戸^{い ど}を掘る^ほ

1990 シアトル(アメリカ)にピース・パークをつくる

2001 アメリカ(ワシントン^{しゅう}州^な)で亡くなる (105歳^{さい})

2012 広島市^{ひろしま し}が「シュモーハウス」を開く^{ひら}



『シュモーハウス ^{ひとり}一人ひとりができること』は

^{たげんご たどく} NPO多言語多読 ^{むりょう よ}「無料の読みもの」で ^よ読めます

<https://tadoku.org/japanese/book/4644/>

参考資料

落葉裕信 (2018) 「広島の家」国や人種を超えて寄せられた支援 ひろしま復興
 キッズ平和ながさき <https://nagasakipeace.jp/reference/materials/kids/>
 シュモーに学ぶ会 (2014) 『ヒロシマの家 フロイドシュモーと仲間たち』シュモーに学ぶ会 広島
 ながさきの平和 <https://nagasakipeace.jp/>
 長谷川寿美 (2015) フロイドシュモーと「広島の家」「人の移動とアメリカ」研究プロジェクト編
 『エスニック・アメリカを問う 「多からなる一つ」への多角的アプローチ』147-176 彩流社
 フロイドシュモー著 大原三八雄訳 (1952) 『日本印象記』広島ピースセンター
 平和構築研究事業報告書『広島復興経験を生かすために 廃墟からの再生 第4巻』国際平和
 拠点ひろしま構想推進連携事業実行委員会(広島県・広島市)
 ETV 特集シリーズ アメリカと被爆者 第1回 『シュモーさんを探して』2018年14日放送 NHK
 Floyd Wilfred Schmoe (1983) Why is man: That Thou abidest him. C.E.Publications

シュモーさんが残してくれたもの 1・2・3・4

はっこう
 発行: Website ^{よ もの}読み物いっぱい ^{ねん がつ にち}2022年12月26日

せいさく ^{へい わ} ^{たいせつ} ^{つた} ^{にほんご} ^{きょうざい}
 制作: 平和の大切さを伝える日本語教材をつくる会 ^{かい}

^{あさべ} ^{やすこ} ^{つちもと} ^{ゆいこ} ^{なかごし} ^{なおみ} ^{ながみね} ^{さちこ}
 朝辺 泰子 槌本 由維子 中越 尚美 長峯 佐知子

^{はしもとれいこ} ^{もりしたさちこ} ^{ろうどく} ^{あさだ} ^{かおる} ^え ^{もりした} ^{たかゆき}
 橋本玲子 森下幸子 朗読: 浅田 薫 絵: 森下 高行